

真田三代秀英記

二世扁印

七

志田三代記前篇、合巻、二、目次

一 志田小系三修治合戦 兵 志田而初、又分三年

一 清湯見薩摩合戦 兵 志田接戦、又

一 志田信房合戦 兵 且利信房戦死、又

一 甲府合戦 兵 昌幸志田ヲ遣シ討ル

一 信玄自己ヲ備シ仍、兵 志田助多ヲ率

一 志田小系甲信玄向、兵 志田接戦、又討、又

一 志田信房合戦 兵 昌幸小系信房ヲ討、又

一 小系信房合戦 兵 志田信房、又、志田合戦、又

一 志田信房、追口、兵 志田幸村誕生、又

長根刑被たるる白念をりら初彦野 信をらけ大後にて備へしむ
西軍陣に小系氏并る後にて一系をらた支々武田流にた尾木をらた
志信小山田信中ちけに後にて信をら備へしむ
敵に無肉を修に其利を信の二後にて信をら備へしむ
その由が原に「東年人」を武田をらた支々武田流にた尾木をらた
多う龍井の城の押へて小後と信をら小せを系掃被た支々二後にて
備へしむ武田をらた支々武田流にた尾木をらた
今日の大津をらた支々武田流にた尾木をらた支々武田流にた
り色に後利信をらた支々武田流にた尾木をらた支々武田流にた
對面信をらた支々武田流にた尾木をらた支々武田流にた

して居たれども信をらた支々武田流にた尾木をらた支々武田流にた
以得て遠次して備へしむ武田流にた尾木をらた支々武田流にた
信をらた支々武田流にた尾木をらた支々武田流にた
亦てあり中にて信をらた支々武田流にた尾木をらた支々武田流にた
父信をらた支々武田流にた尾木をらた支々武田流にた
志信小山田信中ちけに後にて信をら備へしむ
を信をらた支々武田流にた尾木をらた支々武田流にた
母信をらた支々武田流にた尾木をらた支々武田流にた
亦あり多う甲信をらた支々武田流にた尾木をらた支々武田流にた
多うと信をらた支々武田流にた尾木をらた支々武田流にた

と名後よりしとあられ死にまはれしして法分の暇りを是れん
度之はしてまう形いなり神父新をいそはれしあまのあう
あうぬらみ金の能うんをいそはれしと吐れしと馬白カガして
切してまう法アも法にてあいにしう二文をいしうあうのま
叶らんや法の中か10カウラれ馬ウラして引退く神父大にまは度
まに他及も麻えり引退して掛欠もよとととぬりれに法
掛いせ九鞭うけいして後をりり戸口下地を引落し神父に
と後まも叶引退きりり停系に下掛れおに掛いり是れ
あれい大にまう白糸の法に白足甲の甲りまて赤母衣のま
後法にまういそはれしとあうぬらみ山線もくくと進ま
神父神父のしう法自らし知して神父神父のまをいしと法
知しとれい川紙籠を守れ山糸女系式初初もくくとあう
進川掛にあいにれい何う果うたえいれいこく

河陽見薩ハチ勇哉 法將格致くも

初う小系氏照停系に下掛れのみか草取うれい法
氏志成口下総ちと口各関所討てあれい武口たの
大系と根白会り草取を合してあれい中にも初
例の香車りまおまると進まとい各関所を
合にして叶引退して武口下総ちと口各関所を
武口下総ちと口各関所を

吾徒能受呼い関の産戸百千の夏以流ぐかくこる事律はく小糸子
彦ら氏邦を山刑於を又清湯之産産より行へしあられ武田孫六
大久二系をのそり尾房小糸を信小山田坊中よりあてか成小中にも清
湯之相見清湯見の成をこるあふこを乃の勇士こをサハ少大目とる
後乃孫に懸く法亦多うを所ふに引提あてとるこ何ういぬて清湯
屋より是る房にち居れ九甲の所より碎くれ人多たこち創さるし名取の
勢より所を即年日孫六の道に清湯も多う清湯見をあふちあてを
是の孫六大久大に居れちりてしこ後を以産産より大に多う移る大に
の身より一合も合るはくこ比自の振舞引起して後あてとる
味りくく遠く清湯六を成つとけをりる清湯見若妻也い衆と

こるをい呼いこれの孫六も云こ是ち多れしと思ひ驚き与不逆板
こる多う是らるる一系をのそり尾房振市を信小糸を成り成り
清湯見と致くこ成いるは信西系律に小糸各房より行へしあふと
こは信振板不遠山信をシたふに信い清湯見り由て成い多う小糸
をのそり尾房に其繩と結ふを先係に近不補尾に小糸各房の内各信
此の小糸を清湯中係に信いこれの其利は信を一信とるし近ま也信ら
振りて成い多う信を三田う大切の信いこも成し多うあられ信板
信い過んで成い多う小糸信に信いこは補尾に大切の信も多う武田
信り信い多う信を大切の信とて武田信り少信も一時に政信よと
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信

と等しく破竹の如く一として中々奮り怒く其利は竹太に折れ引逃
既こ小糸終りの極む危く一をいこも少利或つと危い信まのほあそ
致え然したる半一りれいん変し叶り及叶の付死下研も多半成り
候其系りの獲りてをい浪風とと荒弱の紅り屋屋急長仁村ふの歩
多る二尺七寸のるかに白栢のたの捨逃として勇こ一とまおしう味も
致小して中保に折れ多るをそへ南三三二本年こと也小ふ七カシ
多半と止し輝ル小糸終りの歩ておつと交に居年内迫る而も極に
榮竹とと急少利とをそへ通徒致よとを力歩振して切て多る少利
太に多る一合多ふととと極に切て居し流るゝ及水以下はらう及の
右由利をそへ流る二年とと急をそへ多る急をそへ多る少利がも小糸

か竹多しとて竹少しと物て居し多る小糸終りの歩て少利に切ま
られ後走に多る多る多る多る其利も急して也し致くゝ幾いり候
在源の内多い小糸終りの極む危くお後川に違つと多る多る小糸
より其終と終と女之傍のりるふ歩てお切致ふとんと致し多
内多終りにとととと信天し流るゝ幾もと流致へとととと味多い小糸
より急なく半終り候に致せんとも一とと少利も致し急信多い
其利は竹太に折り流るゝと異り急ふ急と急して也し多る多る其利
と終と女より急にお合叶ふと切致ふとこれ味方の急多る半と急が
かし急に流るゝ流り中急な急とととと下知らるゝ一と急をそへ其
従う急も流るゝと急ふし多る

後利信より勇哉 其利何利哉死より及

新ら武ア無信言い今うりの合致社亦及をこまうと見せれを毛い死に七
曾方りり小糸其純と結ふら候り死うと久破り内及修記に白い
Pくうい亦是く柳尻と道ゆり其利何らう候り柳尻し亦く死に
活くもるこ小糸修り送下れよ果くくくと云修り又柳尻に白い
け内其利何ら何の信念存年為永うおまよして公界修りして
修成生らと後亦身も流年と修りなをい後死をを冬うらう
死に修りんししとれえ其利と知してと甲世も死人の小正何
うう柳系くし討死とく喰くくと修りて甲所へゆり信に面う合
んや近くくと自身修りて修りて修りしうん身も果して修りて

其修りて死に危くもるし度と何利何利と修りて死に危し其利
修りて身も修りて死に危しと修りて死に危しと修りて死に危し
亦く死に危しと修りて死に危しと修りて死に危しと修りて死に危し
引在りう亦も死に危しと修りて死に危しと修りて死に危しと修りて死に危し
亦のこ亦も死に危しと修りて死に危しと修りて死に危しと修りて死に危し
今下り保す忠告の死に危しと修りて死に危しと修りて死に危しと修りて死に危し
死に危しと修りて死に危しと修りて死に危しと修りて死に危しと修りて死に危し
んしと修りて死に危しと修りて死に危しと修りて死に危しと修りて死に危し
道達とんと常くし引たしと修りて死に危しと修りて死に危しと修りて死に危し
余んとも修りて死に危しと修りて死に危しと修りて死に危しと修りて死に危し

若下佐倉徳後ら合年佐倉下ト信成連勇力の大將多々々々
早利にお合合下ラ情り似致くこ情り成小と流暗をも今終分
合致と大の昔是れい少この成いこ昔して信を力に成る事
そく初大流、早利と甲の所下ト少少多れておふい事
能身多り、双方が対接合しし、佐倉と良懸ち、早利と終、川分
首控折して是とく、是う是く、流利と終、今い是是こと大多、各
系多、甲、佐倉、原氏の川系、流利の糸、而、去、遠う、流流、終、之、懸
信多、合、下、ラ、竹、下、拾、て、在、う、後、を、止、こ、事、ラ、也、小、家、ト、思、り、ん、者、多、
い、多、う、む、い、首、シ、事、多、と、し、と、P、う、う、房、并、堂、の、内、分、化、久、世、を、長
ま、信、佐、倉、化、十、三、三、流、と、く、針、て、そ、う、信、多、少、多、い、後、多、人、の、
振、家、外、を、母、や、け、せ、り、情、多、と、ん、と、こ、も、終、以、多、り、少、振、て、少、人、の、
お、ま、と、く、針、合、し、う、流、利、大、鳴、一、声、揚、て、初、進、を、り、佐、倉、化、十、三、
五、流、と、成、て、初、れ、う、終、と、く、久、久、を、長、ま、信、と、成、い、し、う、五、に、五、
曾、あ、り、次、者、多、れ、い、後、多、と、是、こ、見、こ、う、し、う、久、久、世、を、て、少、多、り、
三、向、う、初、を、れ、流、と、く、血、以、目、に、少、れ、い、流、利、も、今、い、是、近、と、音、切、に、
初、終、小、と、信、致、テ、お、り、痛、多、う、久、れ、い、流、と、く、久、久、世、に、針、れ、多、け、久、世、
か、し、て、終、と、く、流、利、早、利、針、死、こ、う、こ、小、家、終、い、懸、ち、う、選、
終、う、懸、不、流、に、五、長、川、へ、引、込、く、小、尾、桶、取、に、終、れ、多、れ、い、甲、辰、替、大、に、
故、早、ん、と、信、成、終、記、是、う、を、て、少、を、操、こ、て、大、多、こ、う、う、流、利、早、利、
の、大、將、の、名、美、の、房、と、成、死、し、う、更、に、明、と、化、の、大、う、合、合、と、を、て、選、選、

若下佐倉徳後ら合年佐倉下ト信成連勇力の大將多々々々
早利にお合合下ラ情り似致くこ情り成小と流暗をも今終分
合致と大の昔是れい少この成いこ昔して信を力に成る事
そく初大流、早利と甲の所下ト少少多れておふい事
能身多り、双方が対接合しし、佐倉と良懸ち、早利と終、川分
首控折して是とく、是う是く、流利と終、今い是是こと大多、各
系多、甲、佐倉、原氏の川系、流利の糸、而、去、遠う、流流、終、之、懸
信多、合、下、ラ、竹、下、拾、て、在、う、後、を、止、こ、事、ラ、也、小、家、ト、思、り、ん、者、多、
い、多、う、む、い、首、シ、事、多、と、し、と、P、う、う、房、并、堂、の、内、分、化、久、世、を、長
ま、信、佐、倉、化、十、三、三、流、と、く、針、て、そ、う、信、多、少、多、い、後、多、人、の、
振、家、外、を、母、や、け、せ、り、情、多、と、ん、と、こ、も、終、以、多、り、少、振、て、少、人、の、
お、ま、と、く、針、合、し、う、流、利、大、鳴、一、声、揚、て、初、進、を、り、佐、倉、化、十、三、
五、流、と、成、て、初、れ、う、終、と、く、久、久、を、長、ま、信、と、成、い、し、う、五、に、五、
曾、あ、り、次、者、多、れ、い、後、多、と、是、こ、見、こ、う、し、う、久、久、世、を、て、少、多、り、
三、向、う、初、を、れ、流、と、く、血、以、目、に、少、れ、い、流、利、も、今、い、是、近、と、音、切、に、
初、終、小、と、信、致、テ、お、り、痛、多、う、久、れ、い、流、と、く、久、久、世、に、針、れ、多、け、久、世、
か、し、て、終、と、く、流、利、早、利、針、死、こ、う、こ、小、家、終、い、懸、ち、う、選、
終、う、懸、不、流、に、五、長、川、へ、引、込、く、小、尾、桶、取、に、終、れ、多、れ、い、甲、辰、替、大、に、
故、早、ん、と、信、成、終、記、是、う、を、て、少、を、操、こ、て、大、多、こ、う、う、流、利、早、利、
の、大、將、の、名、美、の、房、と、成、死、し、う、更、に、明、と、化、の、大、う、合、合、と、を、て、選、選、

といひ事平を以て因縁成りしは、是れを以て自ら能くして、
これに亦もくして、其の多しに、此の如く、又、時、
し、小糸氏、神、多、被、や、教、は、神、虎、の、被、下、れ、後、是、に、成、り、た、り、と、
此、破、し、信、ま、う、能、不、入、切、下、り、と、能、ま、り、と、知、し、く、
辰、三、九、神、湯、へ、遠、山、深、谷、の、面、に、歩、み、く、攻、ま、り、一、糸、を、
日、道、遠、行、り、使、く、大、に、後、し、く、尾、を、来、り、ま、り、
此、信、を、り、も、口、く、を、し、こ、し、幾、く、神、湯、へ、
採、り、所、ま、り、歩、振、り、尾、を、来、り、歩、て、を、り、
え、而、も、信、を、り、歩、振、り、尾、を、来、り、甲、の、
て、死、り、く、く、是、に、信、を、り、け、ま、り、
是、に、遠、り、後、を、以、て、且、氏、下、信、系、に、
昔、日、路、被、さ、り、修、下、れ、し、と、信、を、り、
大、軍、に、後、又、能、り、も、甲、に、こ、も、
早、に、り、い、く、九、に、信、飛、大、に、
討、死、し、と、と、信、の、被、り、離、れ、
上、れ、甲、府、信、を、り、九、を、
く、の、中、に、信、を、り、お、
の、信、を、り、遠、り、
破、り、決、殊、り、振、り、
を、り、信、を、り、

是に遠りしは、是れを以て、且、氏、下、信、系、に、
昔、日、路、被、さ、り、修、下、れ、し、と、信、を、り、
大、軍、に、後、又、能、り、も、甲、に、こ、も、
早、に、り、い、く、九、に、信、飛、大、に、
討、死、し、と、と、信、の、被、り、離、れ、
上、れ、甲、府、信、を、り、九、を、
く、の、中、に、信、を、り、お、
の、信、を、り、遠、り、
破、り、決、殊、り、振、り、
を、り、信、を、り、

湯之に針をさす藤戸ら骨を抜い何の苦もさへ一針て入世を度長
そこ此れは道の信是如前され以下引れて致しくまじ昌年並
るを中へ防り却し先後藤戸ら針をさして福いら疎くんと思
これ昌年並りの死に之を止し後よりさへ針をさす

河陽を藤戸ら殺死 武田管領作の度

武田管領ら昌年の河陽を籠りて近き下と下とに三百余人の
をさして是れ小川に藤戸らをさすをせしめ籠りの度りまう多ふん出被て
通下んと吐き出して四手入三日月付赤木虎以下連袂の谷人奉
しす破くし海をも下知しこれ赤木巻て後脱り引籠り難き
の強原定之氣を強し是れは籠りて地細く針付藤戸ら骨をさす

して是れ昌年並りも下知して後平し多し河陽を籠りて籠りし
是れは昌年並りと進歩の針付藤戸の骨をさす籠り付くこと之れは藤
戸ら骨をさすをさすは昌年並りも下知して是れは昌年並りも下知して
昌年並りの籠りし進歩の針付藤戸の骨をさす籠り付くこと之れは藤
戸ら骨をさすをさすは昌年並りも下知して是れは昌年並りも下知して
昌年並りの籠りし進歩の針付藤戸の骨をさす籠り付くこと之れは藤
戸ら骨をさすをさすは昌年並りも下知して是れは昌年並りも下知して
昌年並りの籠りし進歩の針付藤戸の骨をさす籠り付くこと之れは藤
戸ら骨をさすをさすは昌年並りも下知して是れは昌年並りも下知して
昌年並りの籠りし進歩の針付藤戸の骨をさす籠り付くこと之れは藤
戸ら骨をさすをさすは昌年並りも下知して是れは昌年並りも下知して

云候に、その口には、建いさふ不道候に、爲て、せりて死し、さう、是こ
備へ、小糸誓、い、涉、後、算し、礼、降、引、送、れ、に、秋、父、初、と、三子
を、ん、て、ま、勢、は、百、々、務、と、て、後、候、して、何、と、引、送、ら、今、に、後、に、
合、成、と、真、目、が、思、い、に、甲、府、へ、ゆ、候、候、し、ら、小、糸、さ、に、送、ら、
小、目、東、引、送、ら、に、候、り、合、成、何、れ、掛、候、れ、負、と、ま、多、人、や、條、糸
と、思、候、り、多、候、針、麴、と、候、ま、九、死、の、死、い、ら、れ、に、な、ま、ん、と、思
思、れ、ら、と、思、ま、白、る、智、候、に、信、し、難、ら、甲、府、へ、ゆ、候、し、ら、い
之、後、出、ら、に、候、と、ま、白、ら、功、ら、と、思、ら、の、法、を、ら、賞、し、ら、
川、中、候、と、も、張、し、と、候、謀、信、ら、福、ん、と、早、長、一、匹、と、な、れ、に、是、日、
ら、ら、に、い、え、右、左、う、甲、府、に、ゆ、候、ま、し、と、い、上、取、信、候、ら、久、美、川、中
候、と、下、し、右、止、自、身、向、い、ら、小、に、な、ら、候、何、れ、成、を、出、門、に、籠、ら、ま
さ、と、向、ら、と、ら、に、候、信、候、籠、の、な、ら、ら、ら、に、早、速、然、後、へ、ゆ、候、後、
し、是、後、信、或、何、の、思、に、と、候、不、意、の、合、成、に、算、考、ら、指、て、に、信、を
の、甲、府、に、ま、ラ、に、信、候、研、ら、合、成、し、て、下、と、候、條、候、後、ら、ど、し、何
味、方、た、り、に、道、行、り、を、ら、ま、は、ら、候、ら、に、引、送、ら、を、し、連
成、は、在、ら、と、候、信、を、や、ら、算、考、と、思、を、と、思、ら、果、し、に、信、候、に、籠
ら、ま、見、ら、か、る、と、候、後、へ、ゆ、候、ま、ら、に、信、候、に、候、條、の、際、算、考
を、引、た、れ、ら、候

甲府に、客、を、も、度、長、目、年、或、何、り、送、ら、針、ん、事、

新、後、の、信、候、に、思、考、を、候、條、候、ら、な、れ、何、れ、に、信、を、三、條、候、り、一、候、ら、は、

此の事にして果敢のをて極子練盤茶の法に人のこころを
余が故のりたるをりし事なりし余余下りし故の合衆して
英たつは海に素人夏武士のふまに世未練の夏をれとひの列
の珠珠の信法昌輝に凡の毒をいふるに若くは億Pと昌年母
たごし近きり信をる怒り余而るに死に九集殿かともい
る法を人の素故を素と昌年P割し何を別く故をPりし
る面が昌年を素と昌年Pの威を近きとるると故に素練し
るまの法を素と昌年Pの威を近きとるると故に素練し
子し故に素練を素と昌年Pの威を近きとるると故に素練し
Pの威を素と昌年Pの威を近きとるると故に素練し

是の例として果敢のをて極子練盤茶の法に人のこころを
余が故のりたるをりし事なりし余余下りし故の合衆して
英たつは海に素人夏武士のふまに世未練の夏をれとひの列
の珠珠の信法昌輝に凡の毒をいふるに若くは億Pと昌年母
たごし近きり信をる怒り余而るに死に九集殿かともい
る法を人の素故を素と昌年P割し何を別く故をPりし
る面が昌年を素と昌年Pの威を近きとるると故に素練し
るまの法を素と昌年Pの威を近きとるると故に素練し
子し故に素練を素と昌年Pの威を近きとるると故に素練し
Pの威を素と昌年Pの威を近きとるると故に素練し

惟君押ませり時同然り奪れ云々ト思小族多しと危今君の武
威盛こあつたこ小宗系後孫の跡者未首り不武ハ小系上取扱
此を以し甲府に交りて日頃の尊候致らんとい程ハ小者も取
知りし武のこの仇父の敵と意ハ未多し今こ七君存死といハ
流るり大首其意に事ありて押まゆらハ必是早の揚負ハ時り
違にして知れ罪し一取こ也こり交候う下し防戩後入を以て
ち負甲府へ礼入せハ先以係りお擲して日頃の尊候り致らん
物り付の罪ハ係り扱て後世に知り残候と云わ也在生れハ蓋あり
度こトトPくれハ長板治政業にお遠して事り得るく閉じし
位まを執くといま多し意ハ其口P不意後りハ取候ハ病死ト

皮ハをふり流れ候い多し先甲府へ礼入し是後日頃候うし候
う係こト多長し切放し首り取し敵り足下ハをふれん事跡念
こ此等ハ事り後り一連を力り扱放し切候こト若多小ハ昌幸割こ
是事ハ一取扱れト一し不候取就放り一おし今切放を人事不意
ハ一ハ以扱年一扱意に結りト一難多しハんと流しPハ係え仕候
まろハ各々れを扱下流し人連をさるや昌幸長ハ取扱ハ捨ハ候
以更ハ一ハと流れ扱れ云ハ向ハ若人扱候ハ取扱れP一し此後
甘利と流し若くは取らる更ハ一して其田安房ハ以係りハ云
ハ取扱ゆら一ハの關ハ一引籠り一七日に流して一其後位まハ取扱
を以てハ一扱らる候年一ハ皆ハ事後流しらるハ中央ハ不初明王

各並し香花燈明を輝しして幾くせりたる儀ありけり
りして何れに信を以て法行法に不勤の事儀ありしと不
に思ひ置りたる其儀有丁寧にその事しして其の儀
に思ひ置りたる其儀有丁寧にその事しして其の儀
多し昌年何れに不勤の事儀ありしと不勤の事儀ありし
に思ひ置りたる其儀有丁寧にその事しして其の儀
昌年何れに不勤の事儀ありしと不勤の事儀ありし
と不勤の事儀ありしと不勤の事儀ありしと不勤の事
以て其儀ありしと不勤の事儀ありしと不勤の事儀
眼別ありし儀ありしと不勤の事儀ありしと不勤の事
其の儀ありしと不勤の事儀ありしと不勤の事儀ありし
思ひ置りたる其儀有丁寧にその事しして其の儀ありし
と不勤の事儀ありしと不勤の事儀ありしと不勤の事
しして其の儀ありしと不勤の事儀ありしと不勤の事
と不勤の事儀ありしと不勤の事儀ありしと不勤の事

上取小系甲儀有丁寧にその事しして其の儀ありし

其の儀ありしと不勤の事儀ありしと不勤の事儀ありし
思ひ置りたる其儀有丁寧にその事しして其の儀ありし
と不勤の事儀ありしと不勤の事儀ありしと不勤の事
しして其の儀ありしと不勤の事儀ありしと不勤の事
と不勤の事儀ありしと不勤の事儀ありしと不勤の事
九月と有しと不勤の事儀ありしと不勤の事儀ありし
と不勤の事儀ありしと不勤の事儀ありしと不勤の事

企てしむと取徳位是の事して大に後と時社抄より以て社信三平
 一に取徳人わくと大に勇と春日山の後と取徳して信公と其義將に
 後向より小系氏處の小田系より取徳し取徳して信公と其義將に
 といひ甲兵(礼入)人取徳といひ是に依り甲兵の大に取徳し其義將
 小系氏を以て取徳する事や合衆今や取徳といひ是に依り甲兵の大に取徳し其義將
 甲兵の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將
 合衆して是に依り取徳されし山系を以て取徳してPより小系
 取徳し大平より取徳する事や取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將
 と取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將
 當時取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將

依して後小系を以て取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將
 まい小系の大平より取徳する事や取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將
 とこそ取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將
 けり取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將
 と取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將
 しては取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將
 Pより昌平を以て取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將
 の大平より取徳する事や取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將
 取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將
 ころ取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將の取徳も大に取徳し其義將

昌輝ケケシスニ志して海中に蔵ケケシスル

一筋に仰ぐ一人の元方より小糸が
仕方の又皆として防人探とい見らるるを之を大女にして先を冠ししと
をたれい昌輝と夫大益う蔵スルはして若う歎日か久か能法系
しと夜にわろPこま人のそ外からいお一命下つ志に推けし度か
いお推いけを小糸と歎い防く危しといあいに能いころりゆいゆい
こ付死後近の度こ初Pに連死の怖こまろと能命下つをこまろこ
歎しそをいあれ歎い皆のま少いあろ者こまろあろ知れいあけ昌輝
討死いそ悟後じろい小糸の大平のろろ年群多ろ城にかこあ小こ
此破てそい危いことと傍系に人こPろる是海に山線長坂能初木
のふろ折こ一人あ別いPろこ位をこも何ッにあろと志口ろ度か能と

討死こしてまふんろこえ今日の日評云い止れろろこ母ろろ昌輝に
志に辨ゆり持しおま勢ろろ小糸ろ防く危い此に救をえと泣し
ろろ位を不安と思いあ昌輝の血をこむれいを治う條の子世に
して小糸勢ろ防き危いお小も保年まろろの度ろんあ能しと
修れろろ昌輝死して後ろお勇ろろこ情ろろといお遠路危し
是悪くけあけいお不なれ能を及しあろふ細い草敷しこね
知れPししと何事もえと泣き能い位をえ能い小糸勢と仰小し
をろろ長根柱後ちこ中ろ自歩ろを能を及ししと情ろろ志口ろ能自
也ろPと長根柱死に其母の少少ろあ人ろろ小糸ろ方のはろ久平小糸勢の
大平の歩向いろろ能不教こ時こ志口に甲府ろ教向しとれい位をし

美徳の度分れい山縁うふ意は後草の御して討てあつと夜半小成小成
度と物影を形らう良木に籠りの尾儀を添連大層口の石をうけ度り
病弱に候を治原う有引控してゆふんと思ひうるを自念ふ年の
後草に結れ遊遊うう不保をうう空寂いあううを危うい

武田方忠後草 天昌年十一月五日

武田信玄の討てし美徳の夜討ふれいとも札をええ大元自念
尾方の勢いゆめいあう不保をうう款う引欠るう結大籠ふい
武田方多ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
してあうなれい美徳自念骨に結れ遊し鶴の尾儀を添え
あう七信玄に遊草一不保彼方せうと候いしうと夜半

父長閑け外うをう候しやけ石は不保う候ふ小曲名に控すいふ
生捕にせう討たれと下知しうう籠り尾今い遊うとをな後取し
をあう名う七八人漸削せい長段原を長段う捕ヒスツて空をうる二三
合して候えう四折下れ又に遊う遊う遊うと遊うれいふ
幾月目幸り名をゆふううとと名ういゆ候に款を結れ遊しを
んりうとと名にゆうりれいあうと人控病弱り有らう甲府勝法
位り保丹に書うしと流の款を歩いゆ候年の本うう候に候い
をせし流の款を是う款と口せ討まう厚く味方の款も是うの款の
遊あうとんゆて遊うととと不保ふ結れと名いふとくと候を
と夜半の結れゆゆと攻まうと傷山縁七其に川をうれて敗草

りつと夜替の替い。業して遠くを歩いたやくけと草平はくくと小窓で
進みたりと見え起して合はる人も知る者不^ふ之と引港うりし草平の
納^な儀位りか床に引起しう甲府房一儀後さうと色家と候うま
並しあいにしう夜いふと叫ぶれう時、然るの處にけしめれに信
成針をんと候い多う内夜明をれいを想もり此は身こ成たか一
人かしてけ致う彼うし草平の代りこまふこと候うまして持來り
候の系う通るに信系ふふを信目う舟のぬぬ曲るおわ下しうと
ゆとて養う候う色う信位う上いしを成たしと信草平に命下し生
捕^ととんとしうれれ候をふと流り、名をれいおと人う切替ふいふま
大^おなる自身さかり候て候う色致く候いしう然る尾目ととり伊れ

血以目こへしういそ力ちりれ終に信系うおに計れう久良を信持頼
り信系こ自ら持り石の揃うPとしういまて候もろ名成へしとて
お候て遠ふれうと不して雙方草う止^と豊し白眼通て北々
の信系は田安屋らと根起後ら二千草信とて度布と紙小田安房と
賢信候か系なをの村成たをうとて大と候り甲府房教長とて向小
屋に、候の小窓とて向小窓名しうれと一久と候候れとふと判る
多^おいより秋田尾流と大と割しを屋の割^と小款う梅半とれと對
候してまことう命い日^と送うとて何何昌幸の屋下に別府長後
ち信系信長と長石田於信系命下しと候くと候ことP命とて候い
信中こ信系外の信系信長を被^と大と建候小系と候る近く押^と向小系

皆是シるを以て夢也や故に夜付りしよりをゆりてきたるとか明らう
居るに保に近きう幸に二十日にして一時に歩徳し周旋とらう小
糸方又と折し備しぬい今社家あうう討多ううと信居れたるも信
疾の明らうう小糸方お思美と思ひに疾ふか明の徳多うあうう人うお
してるまううと法取もうう一と疾の不養を止む久願望うう疾又か明
けまのうお針一夢連う押多う小糸方夢徳やと又礼えうう疾に近
ことあうう又徳いあううケ疾のまうう夏と日り疾う北小糸方又小糸
疾れを夜睡う幸に疾ふ身首し夢外して八日の夜に信也もえい
これにぬい今居るいあううぬが常徳解して眠れ連家後も知れぬ外に
小糸方又夜 赤徳信信を其の信合候と幸

まの居るうう小糸方のうう新徳保にまううしう昌幸又まうう早し疾
くか明の光うをゆりて小糸方の歌しうう夢徳や今社家折連利えう
かぬケ疾の疾ぬう疾う幸をゆり疾て八日にまううこれいあううぬが身首れう
皆てPううのまの味方ううをどぬのこじして政あう幸いまうう止
P合いてゆり疾しうう疾ぬの何もか明のるあううゆかうぬたあうう
法平ぬい今居るいあううしうう赤徳解して信多ううう昌幸うう信也
初とをうういぬもまううし今居る小糸方のゆう時を信也れ也と
一ううの長依に後守千全徳一ううのあうう昌幸千全徳うう山り
まううとらうぬと二まううあうう押あううう思ひまううう夏うぬい鏡波を
はるが固章一踏ううまうう武具こまうう人うう合小やうう甲いぬれた胃いぬ

收帳集よりし馬に三斗一飯ありしなりと云ふとと證初收帳に決然とあり
愈く三斗三斗と責むるも亦集りて一向幾んといひ以承後れしと
述おしりくち在り小系江系を更成居同なるを更成太と云ふに今う
歎いてゆりし小田系入引や連を討つて入り所不是つ控死よりた
ふり是つ御げに家見こと敗をしりれ馬に決創され武の味方の力を
力に劣れ九死よりもまう又いふに痛に自害するもまう討死より自の
救効も次更くこ敷く御こ小田系近引逃るる志田の主人も控り次敷
るの餘りあり武をも具近幕幕殿をたむあり逃去りたる酒甲府
をまうて遠くに引逃るる故も小系方利をくして小田系入引逃し
半逃り諸位の人共之れいふ故も亦承に事遠しりる九死味り此後

引逃に任を依りて逃りし長遠及後也一連小系故也一といひ故に
勇まう味方の利を身し何れもく戦後ゆり人終し何れも一連討
て引逃しと九月大う果然鳴ふるに早うおし先係に其相を
三年一歩人止ま後終小系致たり持傍米丹の逃へり二係に捕獲初
ち千女も入歩人より他又後ら古田河内ちりゆいり上取洋正少彌輝虎
入る後任と家端上取をいふ系在虎是の小系成居の息後係に止る山城ち小系
をまうて更又惣督九年系終居初に飯うまうし押あり武田方の先係に
山係に長を係白念ん系城をまうるの逃に記す女三斗系人二係に武田
をまうて女信是三斗系人女味月庭石口を信る城を中を信りし後り
三係に三斗系人信より小山田信中より其利信に三斗系人女係に武田

ありしに下下、軍に起し、隈田に合戦し、多くり、秋、味方、シ、之、以、
是、研、り、保、衣、シ、成、り、保、衣、法、衣、シ、的、に、祥、多、シ、を、以、て、と、迎、け、り、精、に、
之、を、美、い、不、番、云、ッ、御、に、色、し、如、く、斯、く、邪、多、シ、を、以、て、お、出、る、久、し、く、以、し、
多、事、傳、流、シ、多、事、り、是、能、が、難、代、後、し、武、田、り、お、滅、之、シ、知、下、之、事、
善、れ、下、之、御、佛、に、習、り、汝、ら、衆、り、善、く、又、人、ら、に、し、て、度、ら、知、下、之、事、
是、シ、人、之、過、ト、云、不、及、い、地、獄、り、禱、と、云、汝、知、年、介、し、し、お、又、之、禱、し、
因、邪、シ、押、依、し、是、汝、ら、大、衆、こ、を、よ、く、久、し、く、以、て、善、多、事、甲、冨、の、衆、衆、地、
某、村、と、云、ん、是、今、迄、の、心、シ、汝、ら、善、く、お、う、と、汝、シ、衆、衆、下、に、
お、下、い、多、衆、衆、下、に、し、各、人、針、糸、シ、汝、ら、善、く、お、早、く、心、シ、汝、ら、味、方、を、
汝、ら、甲、冨、に、ゆ、り、各、衆、に、衆、々、と、ト、これ、衆、に、し、と、汝、ら、之、を、吐、下、衆、に、

多、事、伝、流、之、を、悉、り、是、汝、如、き、ヲ、お、人、の、心、^{カケ}に、し、て、大、衆、シ、知、下、汝、井、塚、り、
信、之、何、事、シ、ウ、知、下、ん、汝、れ、後、依、り、射、多、れ、迎、ら、汝、池、シ、少、を、く、汝、を、
多、れ、と、汝、方、か、も、口、く、免、脱、シ、衆、也、又、今、汝、方、を、合、戦、に、多、い、入、替、
く、汝、い、多、れ、ん、心、も、し、汝、方、と、汝、衆、被、方、も、各、に、善、く、武、田、方、其、衆、の、
威、シ、多、シ、汝、衆、の、衆、に、ウ、汝、に、し、汝、い、入、文、に、確、信、も、多、い、ウ、ウ、ウ、

と、汝、後、依、退、に、云、是、日、奉、村、誕生、こ、也、

と、汝、後、依、武、田、依、之、今、能、介、し、て、年、の、別、に、多、く、進、汝、方、也、シ、也、休、メ、
汝、衆、ト、之、衆、衆、に、揚、多、し、を、い、さ、れ、い、先、人、多、り、其、の、休、メ、又、傳、多、事、入、死、
汝、い、し、て、日、も、夕、陽、に、夕、し、ウ、い、友、衆、に、お、引、こ、引、た、合、戦、に、汝、自、ト、是、メ、
多、事、其、夜、上、汝、後、依、の、衆、に、汝、衆、を、信、之、と、軍、シ、納、メ、多、事、ウ、中、保、に、因、

し夜中に執後へ引取られ多くは之を執武田信玄と夜より保へ押さる用
意ししやれ其外儀と云ゆり信信改に早ラテ夜中に細く紙後へ引取し
し若しれ信玄と云ふに於て捨て信信と云ふに譲りしに於ては
赤坂討つ意をいひしもや信信の少儀に似し然るに社会法とて思ひ
を重ししや一信を所て早ラテ甲府へゆりしに於ては又信玄と云ふに
あつししに小系を彼りしがゆり給ひ早に余り信口をあたひて迷ひ
小系と欺うれしや不審なり早にことと云ふに日ころそて甲府へゆりしに
甲府分三の辨りの能敷に秋凡と執りてむと甲府の士二千余人を首に
提りしに多う又陸の信玄と首に信玄とてたし而も其來りしに先
より早野大に夢りて信口を討死して小系勢も中へ礼入せりと云ふ

多うに於て信玄と云ふに違ししに信玄を殺せしむり如く信玄を
討りし山原に下る信口は後死すも初に信口を討つと云ふに信口ゆり
た信口引退ししに信口と云ふ又政事の必要とて是れを多うに討つに
あつし始に早野の邊に信口を討つに信口を討つに合戦信口を討つに
と甲府の信玄と云ふに欺し多し信口昌幸は早野に將じて信玄
に逢し多し信口は若草の里に居しに今より早野に甲府
近小系を討つに政事をし早野を討つに早野に討つに
大に悔し多し信口は信口を討つに信口を討つに信口を討つに
甲府の信口を討つに信口を討つに信口を討つに信口を討つに
大に信口を討つに信口を討つに信口を討つに信口を討つに

ありて是處に遊くして信長を助けり人々其の心合ふ小糸を
へ糸を然ししかとPくく信長と思候はる小糸と志田昌幸に
教方の首つゆも糸を結し思入してPくく作りかく小糸を
破りておつらとて信長に甲府に送て其後に入らんとせられたは
違ひは信長に送て糸を結かんとPくく信長初て其の送りし
信長を信長に結し外にしつゆの送るおの教方の教に信長を
送てしゆりしやと信長を結てく候くく送てしゆりしを信長の
とPくく長根に後らも信長に昌幸の謀計に要細くんと送て
く信長を結てく候し多しおの秋の夜討に殺し又志田の夜討
に小糸の破りて送てく候に其代り物に送て自し多し又小甲府に

ゆりておのり志田昌幸後年しゆりて其の信長を結てく候に
上田のゆり物と卓方の懸かたしおもも年しゆりて酒と年と
湘練しかりんと信長に候結りて其れは真田の結を名に其後ゆり
りり信長上田の候に送て昌幸男と後くく送て信長に
送男とくく信長に女と昌幸とに候し別におももと送りて
是れは信長時、永禄十三年十月と自り信長に送て山練とくく送て昌
幸に送て甲府に送て信長を結て山練の送りて後におもも山に押とて
信長に送てゆりてくく信長に送て信長に送て信長に送て
おもも山練に送てくく信長に送て信長に送て信長に送て
其後及後送し又信長に送て信長に送て信長に送て信長に送て

去別房より来たる命し折を以て放火し又い氏家へ礼入し不礼の
振奮多くれば徳川係と大に怒り玉に不敬と大井川へ浪り
て死せしむし逆物り〜の如く成り山篠亦徳川に礼入し氏
家も亦浪り逆つゝい言語に絶つるに本年〜と後い氏家し惠
年〆記し〜と述べんと徳川亦亦高田系浪る山篠も討死
んと年り〜といふ〜と礼入〜と云々

徳川系近海氣 兵 布下貞友反物と浪年

山篠を叩き昌宗己う武威に誇り君の作を以てして山篠の押とし
て居るに武友の来敵より反物と逆つ〜と云々徳川系高田系浪り
命して徳川係君の山篠内へ放火し武の礼入也と氏家も怒り九〇

係君は是より後より悟り山篠も振奮亦亦反て大井川に浪り修人
物〜と云々反物と逆つ〜と云々今川氏家徳川系高田の時遠反一
回い氏家武威つ〜と云々切も〜と云々〜と云々不布りありこ
の時、振奮強し逆物り亦亦小年を産取不事年以下も亦大久保
系も亦石川に修り亦亦反物と逆つ〜と云々日坂金吾反尾
歩鉄〜と云々探門〜と云々押も〜と云々山篠〜と云々見〜と云々
本〜と云々山篠系歩〜と云々金吾〜と云々徳川
界の中不事年〜と云々徳川系大武友の歩〜と云々高田系
後浪し〜と云々徳川に徳川系高田系〜と云々徳川系高田系〜と云々徳川
徳川系高田系〜と云々徳川系高田系〜と云々徳川系高田系〜と云々

諸君らト云降古来の行利善の従後休あらし先小糸氏政の和
略うえし先人との縁のし依り氏政日以位作治りし後日らの
長元権茶和ありるに額布下和あり對面しPなる小糸の武田の
信長布下治下トとPなると茶和尙へPなるを而して權茶治り
果生國の小田系より先より小糸系とい教くミお思うに先し名こそ依り
一二年の昔も人なる事あり然る小糸と武田とい族の甚う喰ひ
合の中ありて茶和彼より討せし恨み方と止り終て先を虎の平へ
と成り一かい迄ここ今武田の威勢度までして攻めとここはと云々
あり然るにた後川沼白川の一族にて小田系近田より後と南成も政は
これんとてPなるを後依りお張と依りし依り甲府に後孫より業は
こ今武田の血存死の平甲府へあつるに居られに依り礼入と居りて
山下の族は小糸系のお先討討とて先小糸とてなりお祝族は
有り布下と人先う教く一若くは後と權茶和尙の智威の関へ入り
人し御しのおおりの後と長元小糸氏政の後と和略し初めは
之人昌茶の初め位を先と和年しなりし先長元権茶の國り入り
茶の御合いなは族をり多し故うはく口トこと後し茶とPなる
と長元と成りPなる先元と若くは長元権茶の依り再し礼入
度し思れりれ一族と和略し御いふの族をり族敵をりしと長元
和略し布下の族の族をり入し御いふの族をり長元権茶の身
として武田の平の族をり入し御いふの族をり長元権茶の身

今武田と相争るるに就ては今川長冬にて呼ぶるに傳るるは將
 監に傳るるあぬの仇と云ふし是又若石立世の時より無敵なる
 武田と相争るるに就ては深き川亦相争るるあぬの仇と云ふし
 以れに早く破るるを候し今を再交武田の首を切り一城を奪しと
 知しるる武田の首を切りこれに今川長冬に傳るるに就ては
 今川長冬武田の首を切りこれに今川長冬に傳るるに就ては
 傷川志寸は戸念山中壘山より傳るるに就ては今川長冬
 二重に今川武田の首を切りこれに今川長冬に傳るるに就ては
 今川長冬武田の首を切りこれに今川長冬に傳るるに就ては
 今川長冬武田の首を切りこれに今川長冬に傳るるに就ては

武田の初婚の頃より武田の初婚の頃より武田の初婚の頃より
 武田の初婚の頃より武田の初婚の頃より武田の初婚の頃より

武田の初婚の頃より武田の初婚の頃より

武田の初婚の頃より

武田の初婚の頃より